令和5年度 自由研究作品カード

2 年

研究分野(教科)	国語·
研究テーマ	神医太郎 秋田弁訳
研究テーマ設定の理由	久いぶりに 桃太郎の話を聞き、なれいおないと思ったから
研究成果解説	次にていると、"秋の分の単語はお理解できないものが多い"ということに気づきました。
一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	しているものは簡単なものが多い).
秋明の重要な言語しているだってする。	文化である"秋田弁"をこれからも大切に
	ません。頸の中で香門款1つみてくだけい!

これは はいりつ まます	1177	んで、はばさ、洗濯はしでだら大きな桃がドンプラドンプラ、流れてきだと。	けてどでんして、いいさ見せるだめ、その桃されげえで家さ帰ったといいない。	さび回子でもこさえで特たせるやと思ったか。桃太郎は、ははせこさえた国子	さ持で鬼の島に向かったど。途中、大、後、短と出会い、きび回子を使る	家来さしたで、見ららてついた桃太郎は、島の見さ力ではっては	かっでいっだと。犬は鬼の指は噛みちきり、猿は顔はなっかき、短は日玉は	ーすわっだで。とうとう鬼は「おらだちよりもおめ方の方は鬼だべ」とゆ	し、だめでいだかまどは全部桃太郎に変しだで。	大で、ははさ洗濯はしでだら大きな様がドシんで、ははさとでんして、ドじも見せるだめ、そう様と切ってけえてといかれるようさなが、そう様ははさなでして、できたとないと思ったといってものでできたと思ったといったといったが、大きなが、から赤子がでできたとなってけるでといったといったが、大きなり、立派な男さなが、見ら島は、おはぐな鬼がででもなり、立派な男さなが、とうとう鬼は「おらたらよりし、ためでいだと。大は鬼っ指しばみちざり、ためでいだと。大は鬼っ指しばみちざり、ためでいたが、とうとう鬼は「おらたらよりし、ためでいだが。とうとう鬼は「おらたらよりし、ためでいだが、とうだと、鬼は「おらたらよりしず神が、まっかでいったと。とうだが、鬼っかははっ所できないと思ったが、鬼がいる。これがは、まれがいるとは、といったといったといったといったといったといったといったといったとは、まないかとは、といったといったといったといったといったというには、ないからには、ないからには、といったというには、ないからには、ないが、ないがで、ないからには、ないからには、ないからには、ないからには、ないかがらないが、ないからには、ないがらないがらないがらいがには、ないがには、ないがには、ないがには、ないがには、ないがには、ないがは、ないがには、ないがには、ないがには、ないがには、ないがには、ないがには、ないがは、ないがには、ないがは、ないがには、ないがには、ないがには、ないがには、ないがには、ないがには、ないがにはないがには、ないがには、ないがには、ないがにはないがには、ないがにはないがにはないがにはないがにはないがにはないがにはないがにはないがには
ロ、トーさ山はしは火りに、はははハき洗濯に右、たとないでんして、トーさ見せるだめ、その続きればえで家さ帰ったといいでは、先習がしてだら、大きな桃がドンプラドンプラ、流れてきだと。	ででんして、いいさ見せるだめ、その桃されげえで家さ帰ったといでんして、いいさ見せるだめ、その桃されげえで家さ帰ったどのはばさ、焼濯はしでだら、大きな桃がドンプラドンブラ、流れてきだど。	はさとでんして、いいさ見ざるだめ、その続されげえで家さ帰ったが	The state of the s	鬼場治しでくるべ」と言っだと。いじばばさどでんして、春んだと。その子桃太郎さ、「鬼っ島は、おはやな鬼はいると聞いだと。れ太郎は、あっといれてできだとないといわれるようさなったと、れ太郎は、あっとい	光表部してくるべ」と言っだと、他太郎は、本太郎は、おできたとないいれるようさな、だと、他太郎は、鬼っ島は、おはぐな鬼はいると聞いれた郎は、おはでな鬼はいると聞いれた。	思々島に向がなど。途中、犬、後、雉と出会い、水でできだとないいはなようさなったで、桃太郎は、鬼ヶ島は、おはやな鬼はいると聞いだが、桃太郎は、とこったと。いじばはさとでんして、まんだと、それできたとないと思ったと、桃太郎は、はいれてできだとないと思ったと、桃太郎は、おいてできたとないと思ったと、桃太郎は、はいれているとは、はいれているというできたとない。それでは、はいれているというでは、はいれているというできたとない。	一たで、んで、鬼を見てついた、桃太郎は、島の鬼されれてできだとないいはなようさなっだで、桃太郎は、「鬼を島は、おはぐな鬼はいると用いたが桃太郎は、「鬼な島は、おはぐな鬼はいると用いたが桃太郎は、してきない。 後ゃったい できんし ここれでは、というでもここれでは、というないには、は、おんだい。んで、鬼をは、というないには、は、ないのでできだとないでは、は、ないのできだとない。というないは、は、ないのできだとないでは、は、ないのできだとないでは、は、ないのできだとない。それでは、ないのでは、は、ないのでは、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、ないのでは、は、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、これでは、このでは、このでは、このでは、ないでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	、だと、大は鬼っ指さ噛みちきり、様は顔はひっれき、ただと、大は鬼っ指さ噛みちきり、様太郎は、鬼っ島は、おはぐな鬼はいると聞いだが、鬼が島にあれていたが、鬼っ島にしまったと、と言っだと、ドドははさとでんして、鬼っ島に向かったと、途中、大、様、姓と出会い、上でと、んで、鬼っ島は南かでと、途中、大、様、姓と出会い、たったと、人は鬼っ指さいできたと、大は鬼っ指されていたが、人はいいできたと、人は鬼ったと、	だと。とうとう鬼は「おらだちよりもおめ方の方は、だと。とうとう鬼は「おらだちよります」、様太郎は、鬼がは、おはぐな鬼はいると聞いだが、鬼が出していたが、鬼が出していたが、鬼が出していたが、鬼が出していたが、鬼が出していたが、鬼が出していたが、鬼が出していたが、鬼が出していたが、鬼が出していたが、鬼が出していたが、鬼がいたが、鬼がいたが、鬼がいたが、鬼がいたが、鬼がられていたが、鬼がらだと。人で、鬼がいたが、鬼がいるとしていたが、鬼がいればいるとしているというだと。人で、鬼がいだと、後中、大、猿、雉と出会い、これたが、とうとう鬼は「おらだちよりもおめ方の方は	2 3
、桃さ切ってけえべといいせ急ぶさつげで桃さ切っだか。 すんどくの桃さ見で、「おめさ、んな桃で、なでとっだだが?」と、ででんして、いいさ見せるだめ、その桃されげえで家さ帰ったで、はははハき洗濯に午、たとな	といいさ急いさつげで桃さ切ったな。すんどめさ、んな桃で、なでとっただが?」と、ででんれせるだめ、その桃されげえで家さ帰ったな。	かさ、んな桃で、ちゃでとっただが?」と、ででんだせるだめ、その桃さかげえで家さ帰でな	としいさ急いさつげで桃さ切ったど。すんど	鬼場治しでくるで」と言っだと。いじばばさどでんして、桃太郎さ、「鬼う島は、おはやな鬼はいると聞いだと、「桃太郎」といわれるようさなったと、桃太郎は、あってい	そでもこさえで持たせるべと思ったで、桃太郎は、桃太郎さ、「鬼ヶ島は、おはぐな鬼はいると聞い、水太郎さ、「鬼ヶ島は、おはぐな鬼はいると聞いれなりますだと、	思々島に向がなど。途中、犬、後、雉と出会い、水太郎さ、「鬼ヶ島は、おはぐな鬼はいると聞いだが、水太郎さ、「鬼ヶ島は、おはぐな鬼はいると聞いだが、水太郎は、と言っだと。かじばはさどでんしれ大郎は、おいって	したで。んで、鬼を見せてついた桃太郎は、島の鬼されれ大郎」といわれるようさな、だで、桃太郎は、「鬼ヶ島は、おはやな鬼はいると聞いだが、桃太郎は、だったと思ったで、桃太郎は、はいれ大郎は、とこれでは、 まったで、んで、鬼がにといわれるようさな、だで、 桃太郎は、あったがれ大郎は、鬼の鬼され大郎は、おいば、おいば、鬼の島はしていたが、大郎は、鬼の鬼され大郎は、おいば、おいば、といったが、といったが、大いは、鬼の鬼され大郎は、鬼の鬼され大郎は、鬼の鬼され大郎は、鬼の鬼され	、だと、大は鬼っ指さ噛みちきり、猿は顔はひっれき、「桃太郎」といわれるようさなったで、 鬼はいると聞いたが、鬼が高いていたで、 れ太郎は、鬼があったと、 きっだと、 いじばばさどでんしれる。 んで、 鬼が高いていたが、 鬼が高いたと、 きっだと、 がないは、 はいかったと、 人は、 鬼がられるようさな。 れ太郎は、おいたがれ、 かいかったと、 人は、 かいがった。 れ太郎は、 おいがった。 人は、 かいがったと、 大いないがったと、 大いないがったと、 大いないがったと、 大いないがったと、 大いないがったというだと、 大いないがったというだと、 大いないがったというだと、 大いないがったというだと、 ないないがったというだいが、 ないないがったというだいが、 ないがいがったというだいが、 ないがいがったというだいが、 ないないがったというだいが、 ないないがったいいないがったいからいないないがったいからいないがいからいからいないないが、 ないないないがいないが、 はいないないが、 ないないないないないないないないないが、 ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	だと、とうとう鬼は「おらだちよりもおめ方の方はでだ。とうとう鬼は「おらだちより、ないのでだと、神太郎は、鬼の島は、おはぐな鬼はいると聞いだが、鬼の島は「鬼の島はついだが、鬼の島はついだが、鬼の島はついだが、鬼の島はついだが、鬼の島はついだが、鬼の島はついだが、ない。大は鬼のだと、後中、大、猿、雉と出会い、これで、鬼の島はついだが、大いない。大は鬼のだと、大いない。大いない、ない、とうとう鬼は「おらだちよりもおめ方の方は	
さ見せるだめ、その桃さかげえで家さ帰ったら、大きな桃がドンラデンデラ、流れてきだめ、さりせるだめ、その桃さかげえで家さ帰ったで、おめさ、ん子桃で、なってとっただが?」と、ででんおめさ、ん子桃で、ちゃでとっただが?」と、ででんは火りにはははり、その子は、	でだら大き年桃がドンブラドブラ、流れてきだど。その子は、おめさ、んな桃ど、ちゃでとっただがっして、でんなおめさ、んな桃ど、ちゃでとっただがっして、ででんおめさ、んな桃と、ちゃでとっただがっして、でん	といばはさどでんして、喜んだど。その子は、おめさ、んな桃で、ちゃでとっただが?」と、ででんおめさ、んな桃で、ちゃでとっただが?」と、ででんおめさ、人な桃で、ちゃでとったがのり、と、ででん	さいばはさどでんして、喜んだど。その子は、	鬼歩治しでくるべ」と言っだと。じじばはさとでんして、桃太郎さ、「鬼っ島は、おはぐな鬼はいると聞いだと。、派な男さなだと。	そでもこさえで特たせるべと思ったで、桃太郎は、北太郎さ、「鬼う島は、おはぐな鬼はいると聞いれた郎さ、「鬼う島は、おはぐな鬼はいると聞いれた郎のできたが。	鬼ヶ島に向かったど。途中、犬、僕、短と出会い、そでもこさえで持たせるべと思っだで、祇太郎は、「鬼ヶ島は、おはやな鬼はいると聞いたが、旅な男さなだと。	一定で、んで、鬼が見せてついで、桃大郎は、島の鬼されれ大郎さ、「鬼が島は、おはやな鬼はいると聞いだが、地大郎さ、「鬼が島は、おはやな鬼はいると聞いだが、現が島に向かったど。、途中、大、後、短と出会い、 れ大郎さ、「鬼が島に向かったど。 途中、大、後、短と出会い、 れ大郎は、 鬼が見されていると聞いたが、 まからしているというできない。	だと。大は鬼っ指さ噛みちぎり、猿は顔はなっかき、上だと。大は鬼ったくるべ」と言っだと。ドドははさとはんりとない。というだと、桃大郎さ、鬼がらと高されたが、というない。んで、鬼がらだと、途中、大、猿、姓と出会い、は、鬼がらいんで、鬼がらいんで、れ大郎は、鬼がられまれたが、たい。大は鬼がしていたが、れ大郎は、鬼っ鬼されたが、ないので、れたが、れていると、れていると、れていると、れていると、れていると、れていると、れていると、れているとは、ないのではないのでは、ないのではないのでは、ないのではないのでは、ないではないでは、ないではないがでは、ないのではないでは、ないではないでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのではないではないのでは、ないのではないでは、ないのではないのでは、ないのではないではないでは、ないのではないのではないではないのではないではないではないではないではないではないではないではないではないではない	だで、大は鬼ヶ指で噛みちごり、様は顔はなられき、上でと、人で、鬼ヶ島は、おはでな鬼はいると聞いだが鬼が出て、これで将たせるべと思ったが、他太郎は、ほっ鬼さったが、大郎は、鬼ヶ鬼さったが、大郎は、鬼ヶ鬼さったが、大郎は、鬼ヶ鬼さったが、大郎は、鬼ヶ鬼さったが、大郎は、鬼ヶ鬼さったが、大いの、人で、鬼ヶ島は、おはでない、ないので、大は鬼というない。大いないので、大いは、からない。大いないので、大いは、からない。大いは、ないので、大いは、からないというない。	「桃太郎」と
「桃太郎」といわれるようさなったで。桃太郎は、れてできだとなってけれてといいははなべなればれておかさ、んな桃と、なってとっただがられてできだとなったがなったがなっていまでなったがなっていまだとなったがなっていまだとなったがなっていまだとなったがないでできだとなったがはなっていまればははいき洗濯にかれてできだとなったがはなっていまればははいき洗濯にかれているようさなったで、桃太郎は、	「桃太郎」といわれるようさなっだで、桃太郎は、れてできだでな。じじばさなでんしで、じじさ見せるだめ、その桃さればえでは、ちれていだだがられてできだでな。じじばさなでんして、書んだといばさればない。	「桃太郎」といわれるようさなっだで、桃太郎は、れてできだでな。じじばばさどでんして、書んだと、れてできだでな。じじばばさどでんして、書んだと、だがられているだがない。	「桃太郎」といわれるようさなったで、桃太郎は、桃さ切ってけえべとしじさ急いさつげで桃さ切、花さ切ってけえべとしじさ急いさつげで桃さ切、	鬼歩治しでくるべ」と言っだと。じじははさとでんして、桃太郎さ、「鬼っ島は、おはやな鬼はいると聞いだと。	そでもこさえで特たせるべと思ったで、桃太郎は、北太郎さ、「鬼う島は、おはぐな鬼はいると聞いれた郎さ、「鬼う島は、おはぐな鬼はいると聞い	鬼で島に向かったど。途中、犬、後、短と出会い、そでもことえで将たせるべと思ったで。桃太郎は、はれれいで、鬼ではないと思ったで、桃太郎は、はいれ大郎は、「鬼で島は、おはでな鬼はいると聞いたが	一たな。んで、鬼が見せてついで桃大郎は、島の鬼されたない。ここえで持たせるべと思ったで、桃太郎は、は出会い、大の島に向かったど。途中、大、後、短と出会い、からいののののでで、鬼が見いたが、ないのののので	だと。大は鬼っ指さ噛みちきり、猿は顔はなっれき、上だと。大は鬼っちでなるべと思っだと。 桃太郎は、島の鬼されたと、人で、鬼っ島に向かったど。 途中、大、後、短と出会い、見っ島に向かったど。 途中、大、後、短と出会い、れた郎さ、んで、鬼っ島は、おはのな鬼はいると聞いたがれた郎さ、人で、鬼っ島は、おはのな鬼はいると聞いたがれた。	だで、大は鬼っ指で噛みちぎょりもおめ方の方はただで、大は鬼ったくるべ」と言っだが、ドドはばさどでんり見っ島に向かったど、途中、大、様、短と出会い、たで、人にしかったど、途中、大、様、短と出会い、たで、大は鬼ったが、後で、大は鬼ったが、後、短と出会い、まっちゃんで、大は鬼っちゃんで、それなが、ないので、大は鬼ったが、ちゃんで、大は鬼ったが、ちゃんで、大は鬼ったが、ちゃんで、大ないので、大は鬼ったいというというというというというというというというというというというというという	なり、立派な男さなだで。
でんして、ドッさ見せるだめ、その桃されげえではさ、洗濯はしてだら大きな桃がドンラドンララ、水は切ってけえて、といけて急ささつげで桃さ切がんではないできだなる。サッけはさなでんして、書んだと、がでできだなる。サッけはさせってんして、書んだと、ができだなる。サッけはさせるようさなったで、桃太郎は、	でんしで、ドッさ見せるだめ、その桃さかげえでられて見で、「おめさ、んな桃と、ちゃでとっただかってけえべといいさ気がなればっていただがられてできだでないいではさせでんして、書んだとのれて部」といわれるようさなったで、他太郎は、	一流な別さなだで。	一根な切ってけえべとしじせ急いさつげで桃さ切ってけえべとしじせ急いさつげで桃さ切ってけれていまれたで、 まんだど。 桃太郎は	してくるべ」と言ったど。といははなどでんして、人は	してえで持たせるかと思ったか。他人郎は、	村って鬼々島に向かったど。途中、大、後、短と出会い、で鬼歩治してくるべと思ったと。桃太郎は、は	してくるべ」と、言ったど。ドドははさとでんしてものがったど。、途中、大、後、短と出会い、は、向かったど。、途中、大、後、短と出会い、は、	大は鬼の指は噛みちきり、様は顔はなっれき、いた向がったど。途中、大、後、短と出会い、たちが、鬼が見れてついた桃太郎は、島の見されんで、見な見れていたが、後、短と出会い、はいいで、見な見れていたが、はい	こうとう鬼は「おらだちょりもおめ方の方はしてんで、鬼なられさついだ桃太郎は、島の見されたが、鬼かられさかが、ないは、島の見されたが、鬼の指さいが、大は鬼の指さいが、途中、大、猿、雉と出会い、いに向がったど。 かいははさとでんし	桃太郎さ、「鬼る島は、おはぐ
桃太郎さ、「鬼っ島は、おはやな鬼はいると聞いだど。 「桃太郎」、「鬼っ島は、おはやな鬼ばいると聞いだと、そのれでできだかな。」といわれるようでなったで、 書んだと。 そのれまができだがな。 けいさんしで、 喜んだと。 そのれたできだかな。 じいけばさんして、 喜んだと。 そのれたでの 男さながど。 かんかっているはいれたが、といわれるようでなったで。 桃太郎は、あっといってきばれていると、といわれるようでなったで。 桃太郎は、あっといったというれていると聞いだと。	がでできだでな。いいばささどでんしで、書んだい。そのれで見で、いかれるようでなったが、その桃さ別でなっていれていまればさなでんしで、書んだい。そのれでがっているといいばささどでんして、書んだい。そのれで 男さなだい。	桃太郎さ、「鬼う島は、おはぐな鬼はいると聞いだと。れた部と、たいかれるようさな、だで、 もんだと。 そのれは見で、「おめさ、んな桃と、なでとっだだが?」と、とれてできだとないでははさどでんして、 喜んだと。 そのでれてがり、といわれるようさな、だと、 桃太郎は、あっといっれた部」といわれるようさな、だと、 他太郎は、あっといっれた部」といわれるようさな、その様さればえで家は帰れたが、	桃太郎さ、「鬼ヶ島は、おはぐな鬼はいると南いだど。一株大郎」といわれるようさな、だど。桃太郎は、あっどい、桃太郎は、あっだい。		回子でもこせえで特たせるかと思ったと、桃太郎は、	村って鬼々島に向かったど。途中、大、後、短と出会い、大田子でもこせえで持たせるでと思ったど。桃太郎は、は	んで、見ないさついで桃太郎は、島の見されいた向かったど。途中、大、猿、短と出会い、はれているがない。	大は鬼の指は噛みちきり、様は顔はながせ、いた向ががだと、途中、大、猿、雉と出会い、はた向ががだと、途中、大、猿、雉と出会い、	こうとう鬼は「おらだちょりもおめ方の方はしたらかっだど。、途中、大、猿、短と出会い、人で、鬼といさついだ桃太郎は、島の鬼されんで、鬼といってどの、途中、大、猿、短と出会い、いこされで何にはるかと思ったどの、桃太郎は、はい	してくるべ」と、しかったと。
でんして、ドーさ見せるだめ、その様さかげえで家さいでんして、ドーさ見せるだめ、その様さかげえで家さいでんして、ドーさ見せるだめ、その様さかげえで家さいがでできだかな、といかれるようさな、たと、様と切ってけえべといいばさとでんして、喜んだと、それでできたとないだと。それでいるとして、思いらい、とうとう、鬼は「おらだちよりもおめ方の方はでと、たいのないでと、人は鬼かして、鬼はいったと、人は鬼かして、鬼がいだと、途中、大、様、輝と出会い、したと、人は鬼っ指さばったと、人は鬼っちでで、他太郎は、島の鬼さい、たと、人は鬼かして、鬼がしていたが、とうとう、鬼は「おらだちよりもおめ方の方はでと、とうとう、鬼は「おらだちよりもおめ方の方はでと、とうとう、鬼は「おらだちよりもおめ方の方は	でこだれまどは全部桃太郎に変しだで。そうとう鬼は「おらだちょりもおめ方の方はでいた。大きない。とうとう鬼は「おらだり、様は関はなったと、だで、鬼がられていると、といかれるようさな、だで、桃太郎は、おけでない。といかれるようさな、だで、桃太郎は、おけででもことえで持たせるべと思っだと。桃太郎は、あいたが、鬼が島に向かったと。、途中、犬、猴、輝と出会い、したで、人は鬼がらい、とうとう鬼は「おらだちょりもおめ方の方はでで、とうとう鬼は「おらだちよりもおめ方の方はでで、とうとう鬼は「おらだちよりもおめ方の方はでで、とうとう鬼は「おらだちよりもおめ方の方は	でんして、ドドさ見せるだめ、その続きかげえで家とったんして、ドドさ見せるだめ、その続き見で、「おめさ、んな桃とうなったど。それでできだとな。ドドははさどでんして、喜んだと、それた部は、おさいであるようですだと。んで、鬼々島に向がだと、途中、大、猿、輝と出会い、上たと、人で、鬼ならになったと、ただ。人で、鬼ならになったと、ただ。人で、鬼ならになったと、ただ、鬼ならになったと、だと、人で、鬼ならになったと、だと、人に、鬼っちでいたがない。それたがは、ちょうとう、鬼は「おらだらよりもおめ方の方はでだと、とうとう、鬼は「おらだらよりもおめ方の方は、だい。とうとう、鬼は「おらだらよりもおめ方の方は	で、おさずってけえべといいさ急ぶさつげで桃さ切ってけれてできだなないいけばささなでんしで、暮んだと、それでできだなないいではなさなでんしで、暮んだと、それでできだなないであったといったと、見っ島に向かっだと、途中、大、震、輝と出会い、したな。んで、鬼がらだと、途中、大、震、輝と出会い、これで、見っ島に向かったと、途中、大、震、輝と出会い、これで、とうとう、鬼は「おらだちよりもおめ方の方はでなった」といったが、とうとう、鬼は「おらだちよりもおめ方の方はでなった」といったが、とうとう、鬼は「おらだちよりもおめ方の方は	こうとう鬼は「おらだちょりもおめ方の方は人で、鬼な鼻がてついだ桃太郎は、島の鬼された「鬼の指で噛みちぎり、様は顔はないれき、大は鬼の指で噛みちぎり、様は顔はないれき、大は鬼の指で噛みちぎり、様は顔はないれき	くまどは全部挑太郎に変しだで。 大は鬼っ指で噛みちざり、猿は顔はひられま、煙は大は鬼っ指で噛みちざり、猿は顔はひられま、煙は	かすどは全部桃太郎に変しだで。	し、だめでいだかまどは全部桃太郎に渡しだで。	し、だめでいだかまどは全部桃太郎に変しだで。		10
でんして、ドーさ見せるだめ、その様さかげえで家さいでんして、ドーさ見せるだめ、その様さかげえで家さいべてできだかな、といかれるようさな、たと、様と切ってけえべといいははしとでんして、喜んだと、それでできだかな、といかれるようさな、たと、様と切ってけえべといいなるようでなったと、それでできだかな、といかれるようさな、たと、他太郎は、思ったと、たとのようでと、たとのようでと、たと、見ららいでだめ、とうとう、鬼は「おらだちよりもおめ方の方はでだっ、とうとう、鬼は「おらだちよりもおめ方の方はでいだい。とうとう、鬼は「おらだちよりもおめ方の方はでいたれまどは全部様太郎は、鬼っれまでは、まながは、鬼っ見されただ。とうとう、鬼は「おらだちよりもおめ方の方はでいたれまどは全部様太郎は、鬼っれまでは、鬼ったと、だが、鬼はいるとは、おはない、とうとう、鬼は「おらだちよりもおめ方の方はでいたれまどは全部様太郎は、鬼っれまでは使い、ゆうが	でっかできたとないであるようさを、桃太郎は、かったと、たてできたとないでしたべといけさ急いせつげで桃さ切っていえべといけさきがさんして、喜んだと、それでできだとないいはないでなったとのれるようできたとないにはさいでんして、喜んだと、それないは、おはでとないと思ったと、桃太郎は、あったと、とうとう、鬼は「おらたちより、花は関はなったと、たい。とうとう、鬼は「おらたちより、花はは、島っ見さったと。人は鬼ったと、とうとう、鬼は「おらたちより、花は関はなっれき、でいだかまどは全部桃太郎は、鬼っかすでは使い、ゆうがで、とうとう、鬼は「おらたちより、花は関はなっれき、だい。とうとう、鬼は「おらたちょり、花は関はなっれき、だい。とうとう、鬼は「おらたちょり、花は関はなっれき、でいだかまどは全部桃太郎は、鬼っかすでは使い、ゆうがでいたかまどは全部桃太郎は、鬼っかすでは使い、ゆうがでいたかまどは全部桃太郎は、鬼っかすでは使い、ゆうが	でんして、ドドさ見せるだめ、その続きかげえで家さいれてできだなな。ドドははさなでんして、喜んだと、れてできだなな。ドドははさなでんして、喜んだと、それた即は、思っ島と同かだと、途中、大、徳、雄と出会い、上たと、人で、思ったと、ここれでは、と言っだと、ドドははさなでんして、鬼ならにない。とうとう、鬼は「おらだらよりもおめ方の方はでと、人で、まって、鬼ならば、おはでなり、後、女というだと、人で、鬼ならになったと、だい。人で、鬼ならになったと、ないで、とうとう、鬼は「おらだらよりもおめ方の方はで、とう所でもでは、金町は、おけで、とうとう、鬼は「おらだらよりもおめ方の方はで、この所でもでは全部株太郎は、鬼っ見されていたかまどは全部株太郎は、鬼っ見されていたかまどは全部株太郎は、鬼っれき、だと、大は鬼は、おけがないと、ないたかまどは全部株太郎は、鬼っれまでは使い、ゆうがたっかが、とうとう、鬼は、おきだらよりもなが、その続きないないにないないと、たいで、ころがないと、ないないないにないないが、というないと、ないないないないと、ないないないと、ないないないないないないというないないとないないと	で、村さ切ってけえべといいさ急ぶさつげで桃さ切ったかれてできだとないいけばざさどでんしで、暮んだと、たれてできだとないいけばざさどでんしで、暮んだと、それできたとないでしまったと、大がは、鬼からの方は、たい、鬼が島に向かだと、途中、大、後、姓と出会い、したと、人は鬼っ指で強力ちざり、様は顔はなっれき、だと、人は鬼っ指で強力ちぎり、様は顔はなっれき、でいだかまどは全部桃太郎は、鬼ったと、人は鬼っ指で強力ちぎり、様は顔はなっかき、でいだかまどは全部桃太郎は、鬼ったとり、なは顔はなっかき、でいだかまどは全部桃太郎は、鬼っかるとり、ないでいたかまどは全部桃太郎は、鬼っかるとり、ないでいたかまどは全部桃太郎は、鬼っかるでは使い、ゆうが	こうとう鬼は「おらだちょりもおめ方の方は大は鬼の指は噛みちぎり、様は顔はなっれき、気を見れてついだ桃太郎は、島の鬼されまざは全部桃太郎に変しだで。	とうとう鬼は「おらだちよりもおめ方の方は鬼だ人は鬼っ指で噛みちざり、猿は顔はひられま、短は大は鬼っ指で噛みちざり、猿は顔はひられま、短は大は鬼っ指で噛みちざり、猿は顔はひられま、短は人で、鬼と島でした 桃太郎は、島っ鬼さ刀で	じばばの所でもどった桃太郎は、鬼りかまでは使い、ゆうがは暮さわったど。とうとう鬼ば「おらだちよりもおめ方の方は鬼だらでいったと。大は鬼り指は噛みちきり、猿は顔はひられき、煙は		いはばの所 てもなった桃太郎は、鬼のかまでは使い、ゆうがに暮らし、ためでいだかまどは全部桃太郎に変しだで。	じばばの所 てもとっだ桃太郎は、鬼のれまでは使い、ゆうがに暮らし	Ku 1
はさ 洗濯げしでだら 大き全様がドジラドジラ、流れてはさ 洗濯げしでだら 大き全様がドジラドジラ、流れていて たりれさ見で、「おめさ、んな桃と、ちゃでとったがで、かでできだとないではなくなったと、大きな 男さな、だい。といかれるようさな、たと、様に関するでんして、喜んだと、それな郎は、思ったと、大きのだと。 かいばさとでんした。 たいかれるようさな、たと、 たいがでと。 だいの、とうとう、鬼は「おらだちよりもおめ方の方はでいだい。とうとう、鬼は「おらだちよりもおめ方の方はでいだが、こうとう、鬼は「おらだちよりもおめ方の方はでいだがまだ」と、たいまどは全部様太郎は、鬼っれまでは使い、ゆうがで、あっ所 でもでが 様太郎は、鬼っれまでは全部様太郎は、鬼っれまでは使い、ゆうがで、だが、まないまでは全部様太郎は、鬼っれまでは使い、ゆうがで、たいまないまでは、鬼ったとは、ないはははいった。	はさ、洗濯はしでだら、大きな桃がドンラドンブラ、流れていてできだとないかれるようさなまだして、暮んだか。それでできだとないかれるようさなまだと、桃太郎は、おかってけえで、といかれるようさなったと、桃太郎は、兄ったと、といかれるようさなったと、桃太郎は、おはでな。からだと、それでできだとないでははさどでんして、喜んだと、それないは、おさいできたと、人は鬼ったと、とうとう鬼は、おらだろよりもおめ方の方はでと、人は鬼ったと、鬼がらだろよりもおめ方の方はでと、人は鬼ったと、鬼がであったと、大は鬼がは、鬼ったと、人は鬼がまでは、鬼ったと、人は鬼ったと、鬼がないまとはをがれまどは全部桃太郎は、鬼っのまとは顔はなっれき、でいだかまどは全部桃太郎は、鬼っのまとは夜い、ゆうがと、とうとう鬼は、おらだろよりもあめ方の方はでいたがまとは全部株太郎は、鬼っかまでは使い、ゆうがと、まないまとは全部株太郎は、鬼っかまでは使い、ゆうがにないまとは全部株太郎は、鬼っかまでは使い、ゆうがでい、そんで、鬼がらだが大郎は、鬼っかまでは、鬼っかまとは、といいは、といいは、おはないないないは、おはないといいは、おはないと、たいと、大きないといいと、大きないと、大きないと、大きないと、大きないと、大きないと、大きないと、大きないとないと、大きないと、大きないと、大きないと、大きないと、大きないと、大きないと、大きないと、大きないと、大きないと、大きないといいと、大きないといいと、大きないと、ないとないといいと、大きないといいとないと、大きないと、大きないとないとないとないとないとないとないとないとないといいとないといいとないとな	「桃さ切ってけえでといかれるようさな、だで、桃さ切ってけえでといかれるようさな、だでんして、喜んだか、その桃さ見で、「おめさ、ん子桃で、ちゃでと、だだが?」と、かでできだとないいははしどでんして、喜んだか。それ大郎は、見っ島は、同かったど。 後中、犬、猿、雉と出会い、見っ島は、同かったど。 後中、犬、猿、雉と出会い、見っ島は、同かったど。 大は鬼かったど。 大は鬼かったど。 後中、犬、猿、雉と出会い、たど、とうとう 鬼は「おらだちよりもおめ方の方はだい。とうだっとうだれまどは全部桃太郎は、鬼っれまではで、とうどう鬼は「おらだちよりもおめ方の方はでいたが、までとっだれまどは全部桃太郎は、鬼っれまでは使い、ゆうがで、だが、まないでで、だがまどは全部桃太郎は、鬼っれまでは使い、ゆうがで、こうだいまどは全部桃太郎は、鬼っれまでは使い、ゆうが	「桃大郎」といわれるようさなったで、桃太郎は、おんだと、それでできだとないといわれるようさなったと、桃太郎は、鬼がは、といわれるようさなったと、桃太郎は、あいったと、えがら、とうとう、鬼は「おらたちよりもおめ方の方はでいる、とうとう、鬼は「おらたちよりもおめ方の方はでいたかまどは全部桃太郎は、鬼っれまどは全部桃太郎は、鬼っれまどは全部桃太郎は、鬼っれまどは全部桃太郎は、鬼っれまどは全部桃太郎は、鬼っれまどは全部桃太郎は、鬼っれまでは使い、ゆうがで、だが、まさば、鬼がは、鬼っれまでは使い、ゆうがで、だがまどは全部桃太郎は、鬼っれまでは使い、ゆうがして、まされまどは全部桃太郎は、鬼っれまでは使い、ゆうが	しうとう鬼は「おらだろよりもあめ方の方は人で、鬼が鼻がさついだ、桃太郎は、島の鬼されたいないないないないないないでは、鬼の鬼されたがは、鬼の鬼されまでは全部、桃太郎に寝しだで。	んで、鬼ヶ崎でついで桃太郎は、島っ鬼さ刀でしうとう鬼は「おらだちよりもおめ方の方は鬼だないないは全部桃太郎に変しだで。	特徴ー 特徴ー	一秋田弁の特徴ーー 秋田弁の特徴ー でめでいだかまどは全部桃太郎は、鬼りかまでは使い、ゆうがは暮らしないでからだが、とうとう鬼ば「おらだろよりもおめ方の方は鬼だべ」と	特徴 - でいだかまどは全部桃太郎は、鬼りかまでは使い、ゆうがは暮らしていだかまどは全部桃太郎は変しだで。	特徴ー	濁音が非常に多い。あることに
ある日、トーさ山はーは火りにははは川さ洗濯に行った人で、はばさ洗濯はしてだら大き金桃がドンラドデラ、流れていけはとどでんして、ドーさ見せるだめ、その桃さかげえで家さいでまる日、ではできたがない。といかれるようさながない。それだけ、「桃太郎」といかれるようさながでんして、喜んだど。それだり、「桃太郎は、「鬼っちて、ださっだと。桃太郎は、あってり、である日、木木郎は、「鬼っちさん」と言っだと。・ドーははさどでんして、喜んだど。それが「で鬼場治してくるべ」と言っだと。・ドーははさどでんして、鬼が出子でもこさえで持たせるべと思っだと。桃太郎は、島っ鬼されていって、鬼が出子でもこさえで持たせるべと思っだと。桃太郎は、島っ鬼されていったと。とうとう鬼は「おらだをよりもあめ方の方はしまったが、まったとは全部桃太郎は、鬼っれまでは、鬼がいったが、まったとは全部桃太郎は、鬼っれまでは、鬼っちばられまがは、島っ鬼されていったが、まったとは全部桃太郎は、鬼っれまでは、島っ鬼されていったが、鬼がは、鬼っれまでは、鬼がは、ないればいが、かったが、たいまでは、鬼がないまでは、鬼っれまでは、ちゃんがは、鬼っれまでは、かったが、ないがは、鬼っれまでは、鬼っれまでは、鬼っれまでは、鬼っれまでは、鬼っれまでは、鬼っれまでは、ちゃんがは、鬼っれまでは、ちゃんがは、ちゃんがは、ちゃんがは、ちゃんがは、ちゃんだと、それがは、ちゃんがは、かんがは、かんがは、かんがは、かんがは、かんがは、かんがは、かんがは、か	ははさとでんして、ドドさ見せるだめ、その桃されげえで家さいいけはさとでんして、ドドさ見せるだめ、その桃されげえで家さいいけまたがで、ながは、ながは、ながは、ながは、ながは、ながでできだとな。ドドははさとでんして、喜んだと、おはで、鬼がは、といかれるようさながど、他人で、喜んだと、そり、立来で見、他太郎は、兄がは、といかれるようさながど、他太郎は、おいで、鬼がは、といかれるようさながど、他太郎は、おいで、鬼がは、といったと、といったと、といったと、といったと、といったと、といったと、といったと、といったと、といったと、といったと、といったと、といったと、といったと、といったと、といったと、といったと、といったと、といったと、と、といったと、といったと、といったと、といったと、といったと、といったと、といったと、といったと、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、	ははさとでんして、ドじさ見さるだめ、その桃さかげえで家はいいまたがでできだとな。ドじばなしなっただがで」といわれるようさなったと、桃太郎は、おっていったと、大は、かっでいったと、人は、この桃さ切ってけえ、といかれるようさなったと、桃太郎は、あってり、立派な男さながと。とうとう鬼は「おらだら、が大郎は、島の鬼さの方でで、鬼々田子の角後し、たったと、人は、かったい。だと、人は、かったい。だと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、といったと、人は、かったと、人は、といったと、人は、といったと、人は、鬼がられると、人は、人は、かったと、人は、といったと、人は、といったと、人は、といったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、一はは、ない、かったと、人は、はいいは、といったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、かったと、人は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	一大は、この様と切ってけえでといいさ急いさつけで桃さ切ったといいりますがでできだとないいいはははどでんしで、喜んだと、それらで、鬼様治しでくるべ」と、おはでな鬼はいると聞いだがある日、桃太郎は、鬼がは、鬼がは、としわれるようさなっだと。いいははさどでんしず、鬼様治しでくるべ」と、言っだと。いいははさどでんしず、鬼様治しでとうだと。からでは、たがは、鬼がらだと。んで、鬼は「おらだら、桃太郎は、島の鬼さの方でで、とうとう、鬼は「おらだらよりもおめ方の方はし、だめでいだと。とうとう、鬼は「おらだらよりもおめ方の方はし、だめでいだと。とうとう、鬼は「おらだらよりもおめ方の方はし、だけばばっ所できないまとは全部桃太郎は、鬼の鬼さの人がはばら所でとなった桃太郎は、鬼の鬼さの人がはばら所でいたかまどは全部桃太郎は、鬼りかまとは使い、ゆうがいまがはばら所でもなったれまどは全部桃太郎は、鬼りかまとは使い、ゆうがいまがはばられまとは全部株太郎は、鬼の鬼さい、からでははない、からが、鬼がない、鬼の相にない、ないは、ないは、といいは、といいはは、といいはは、といいはは、といいはは、といいはは、といいはないがないがないははないが、といいははないがないがないがないがないがないがないがないがないがないがないがないがないがな	選音が非常に多い。 。語尾に「そべ」や「全な、など、鬼っだいっだと。人で、鬼ったで、我のあったり、なは顔はなっれき、してかったど。とうとう鬼は「おらだちょりもおめ方の方はし、だめでいだれまとば全部桃太郎は変したで。 し、だめでいだれまとば全部桃太郎は変したで。 し、だめでいだれまとば全部桃太郎は変したで。 し、だめでいだれまとば全部桃太郎は、鬼っ鬼されまかばっ所できるった桃太郎は、鬼っれきでは使い、ゆうがいばっ所できるったが、鬼っれきでは使い、ゆうがいばらが、鬼っちゃくだった。	濁音が非常に多い。 。語尾に「らべ」や「をよっながつき、 、だめでいだかまどは全部桃太郎に渡しだで。 し、だめでいだかまどは全部桃太郎に渡しだで。 し、だめでいだかまどは全部桃太郎に渡しだで。 とうとう鬼は「おらだうよりもあめ方の方は鬼だし、だめでいだかまどは全部桃太郎に渡しだで。	濁音が非常に多い。 。語尾に「らべ」や「をなったをかつきるがのでいったいったで、とうとう鬼は「おらだらよりもおめ方の方は鬼だし、だめでいだれまどは全部桃太郎に寝しだで。 し、だめでいだれまどは全部桃太郎に寝しだで。	濁秋 [1]	濁音が非常に多い。 。語尾に「らべ」で「らを」らど」ながつきやすいでの分でいだかまどは全部桃太郎は、鬼りかまでは使い、ゆうがに暮らり、ためでいだかまどは全部桃太郎に変しだで。	濁音が非常に多い。 。語尾に「らべ」や「らを」らど」ながつきやすい一秋田舟の特徴ー	イントネーションが独特。の理解できないが
たで、はばさ 洗濯はしてだら 大きを継がドンプラド・ブラ、流れてんで、はばさ 洗濯はしてだら 大きを継がドンプラド・ブラ、流れていけさ ででんして、ドドさ 見せるだめ、その桃さ がげえで 家でいったでんして、「おめさ、んな桃と、なったどの、はばさ だなる。ドドはは でんして、ちる日、桃太郎は、「おめさ、んな桃と、なっただがっ」といかれるようさなが、その桃さ がげえで家でとっただが、「鬼ヶ島」といかれるようさなが、その桃さ がげえで家であったが、一まかったで。大き鬼でんして、喜んだい。 もおだけ、「桃太郎は、兄がは、おはでな 鬼はいると 聞いたがある日、桃太郎は、兄がは、ここえで 神たせるべと思ったな。 桃太郎は、あったが、一まかったで。 大き鬼がらだと。 途中、大、様、輝と出会い、たがは、鬼の用きでしたが、えっかまでは全部、桃太郎は、鬼っかまでは、鬼っかまでは、からでいっだと。 大き鬼がするが、鬼がったが、ないがは、かったと、大きなった 桃太郎は、鬼がないまでは全部、桃太郎は、鬼がないまで、人で、鬼がない。 きんだ でんして とかったと ここえで 桃太郎は、鬼っかまでは (はい、ゆうがまがす) でんが、まっかまでは 全部 桃太郎は、鬼っかまでは (はい、ゆうがまがす) でんしゃっかった でんしゃっかった でんしゃっから でんしゃ でんしゃ はばら かんがは、といった といった といった といった といった といった といった といった	ははさとでんして、ドドさ見せるため、その桃されげえで家さいいまかり、この桃さ切ってけえべといいせるため、その桃されげえで家さいいまな切ってけえべといいせるため、その桃されげえで家さいいまなり、立成なり、立成なり、これなができだとないといいれるようでなったが、書んだい。とおから、立派な男さなが、といいれるようでなったが、書んだい。とおいったといったといったといったとのではない。といいないのでで、鬼が出手でもこさえで特だせるべと思うだと。桃太郎は、おったとので、鬼が出手でもこさえで特だせるべと思うだと。桃太郎は、あっなり、立派な男さながといったとの、と言ったと。とうとう、鬼は「おらだら」、様は顔はひっれき、カッでいったと。大は鬼り指は歯かちきり、様は顔はひっれき、カッでいったと。とうとう、鬼は「おらだちよりもあめ方の方はし、アーオの角像し、とうとが、鬼は「おらだちょりもあめ方の方はし、アーオの角像し、アーボーションが独特。 の理解できない 単語が多い。	ははさとでんしで、ドドさ見でるだめ、その桃さかげえで家は、いいもその桃さ切ってけえべといいせるようさなったと、だだが?」といかれるようさなったが、悪人だと、それら、赤子がでできだとな。ドドばはしとでんして、喜んだと、それだけ、「桃太郎」といかれるようさなったと。桃太郎は、おとけ、「桃太郎」といかれるようさなったと。桃太郎は、おっていっだと。んで、鬼がらでんして、喜んだと。そ出だけ、「桃太郎は、「鬼っ島は、おはぐな鬼はいると聞いだがあって見って、鬼が同子でもこさえで持たせるべと思っだと。桃太郎は、島っ見さの方でで、鬼が日子の角微し、これでが、こうとうに桃太郎は、鬼っれまでは食い、ゆうがまではらっ所でとなった桃太郎は、鬼っれまでは食い、ゆうがまではらの所ではないまで、鬼がは、鬼っれまでは食い、ゆうがまがいったが、まではない。とうで、大はない、ないのでははいったが、ことでで、とうで、といったが、ないまでは、ちゃんで、とうに桃太郎は、鬼っれまでは食い、ゆうが、まっかまでは全部桃太郎は、鬼っれまでは食い、ゆうが、まっかで、とうできれ太郎は、鬼っれまでは、鬼ったとして、からでかよりもあったが、ないまでは、まったが、こうだが、ないは、ないまでは、ちゃんだい。といれるは、ないで、ないは、おいない。	人は、この桃と切ってけえでといいはないでんしで、喜んだと、それらで、鬼場治しでくるや」と、おはいったが、地太郎は、といわれるようさなったと、他太郎は、おかって、鬼は治しでくるや」と、言っだと、いいははさどでんして、鬼は治しでくるや」と、言っだと、いいははさどでんして、鬼は治してくだと、他太郎は、あったり、立れで、鬼はらになったと、たがは、鬼がいっだと、人で、鬼は「おらたちよりもおめ方の方はし、ためでいだと、人を、鬼は「おらたちよりもおめ方の方はし、ためでいだと、人を、鬼は「おらたちよりもおめ方の方はし、ためでいだと、人を、鬼は「おらたちよりもおめ方の方はし、ためでいだと、とうとう、鬼は「おらたちよりもおめ方の方はし、ためでいだと、とうとう、鬼は「おらたちよりもおめ方の方はし、ためでいだと、とうとう、鬼は「おらたちよりもおめ方の方はし、ためではばらの所でとなったれまどは全部桃太郎は、鬼っかまとは使い、ゆうが、ことが、たがは、鬼の鬼として、ころが、まない、ためでいだが、まない、とうとう、鬼は「おらたちよりもおめ方の方はし、ためでは、鬼っかまとは使い、ゆうが、ことでも、鬼っかまとは使い、ゆうが、ことが、ことが、ことが、ことが、ことが、ことが、ことが、ことが、ことが、こと	安果さしたと。んで、鬼が見れてきない単語が多い。 っていっだと。人で、鬼が見れていた、桃太郎は、島の鬼されていっだと。人で、鬼が見れて、ったがでいたかまとば全部桃太郎に変したで。 し、ためでいたかまとば全部桃太郎に変したで。 し、ためでいたかまとば全部桃太郎に変したで。 し、ためでいたかまとば全部桃太郎に変したで。 とうとう鬼は「おらだちょりもおめ方の方はし、たがはずの所でもなった秋太郎は、鬼の鬼されまかばながまかばなが、鬼っれまでは使い、ゆうが	安来さーだび。んで、鬼なられてがらだり、様は顔はなっれき、短は切っでいっだで。とうとう鬼は「おらだちょりもあめ方の方は鬼だし、だめでいだれきどは全部桃太郎は渡しだで。 し、だめでいだれきどは全部桃太郎は渡しだで。 し、だめでいだれきどは全部桃太郎は渡しだで。 し、だめでいだれきどは全部桃太郎は渡しだで。	一すかっだい。とうとう鬼は「おらだろよりもおめ方の方は鬼だし、だめでいだれまどは全部桃太郎に寝しだで。 とうとう鬼は「おらだろよりもおめ方の方は鬼だし、だめでいだれまどは全部桃太郎に寝しだで。 一秋田弁の特徴し、。 高尾に「らべ」や「をよっながつまだ」をができるが、ないが、だと。大は鬼っ指で噛みちざり、様は顔はひられま、短は切っていっだと。大は鬼っ指ではない、見っれま、短は切っていっだと。大は鬼っ指ではない、草語が多い。 をイントネーションが独特。 の理解できない単語が多い。 をイントネーションが独特。 の理解できない単語が多い。 を	分濁秋 1111	一秋田弁の特徴し、の語尾に「らべ」や「らを」などがつまやすいであるいだかまどは全部桃太郎は、鬼りかまでは使い、ゆうがに暮らしてかったが、常りがまでは使い、ゆうがに暮らしてかったが、常のがまでは全部桃太郎に変したで。	イントネーションが独特。 の理解できない単語が多い。 ならないできやすい一秋田弁の特徴ー	一単語解説-
んで、ははさ 洗濯はしてだら 大きな桃がドララド・ララ、流れてんで、ははさ 洗濯はしてだら 大きな桃がドララド・ララ、流れていけさくとでんしで、ドーも その桃さ切ってけるで と ドーさ 急いさつげで 桃さ 切ったと へは、この桃さ切ってけるで と ドーさ 急いさつげで 桃さ 切ったと へは、この桃さ切ってけるで と ドーさ 急いさつげで 桃さ 切ったと へは、この桃さ切ってけるで と ドーさ 急いさつげで 桃さ 切ったと から 赤子がでできたとな。ドーははさ どでんしで、喜んだい。 そ 出だけ、「桃太郎」といわれるようさなったと でんして、鬼がは、かったと でんりで 鬼がったと。 そのま でしまで 鬼がら でんしんで、鬼がは、おはぐな 鬼ばいると 聞いたがある日、 たがで 鬼がら でんしんで、鬼がら でんして、喜んだい。 そ 出たけ、 でん 鬼がら でんしゃ でんしゃ たい でん と でんしゃ たい でんしゃ でん と でんしゃ でん と でんしゃ でん と でんしゃ でん でん と でんしゃ でん と でん でん と でん と でん と でん と でん と でん と	(中はくびでんしで、ドドさ見せるだめ、その桃されげえで家くのいけてでんして、ドドさ見でるだめ、その桃されげえで家くのいら赤ナかでできだとな。ドドははてどでんして、ドされていらなり、立派な別さなが、見い島は、おはいなが、から赤ナかでできだとな。ドドははてどでんして、喜んだい、別でいっだと。だらなり、立派な別さながになったといかれるようさなが、との桃されげえで家くのおおけ、「桃太郎」といわれるようさながとなったとのなり、立派な別さなが、見い島は、おはのでとの、他太郎は、あったは、でので、鬼が同子でもことえで将たせるべと思っだと。桃太郎は、島の鬼さの方が、立方で見いたが、鬼がは、とうとう、鬼は「おらだらよりもおめ方の方は、カー、ためでいだがまどは全部桃太郎は、鬼っれまでは、鬼っればは、ないがは、鬼っただが、鬼っただが、神がないが、といればないが、といればは、これがは、といればは、といればは、これがはないがは、といればは、これがは、といればは、これがは、といればは、といればは、これがは、といればは、これがは、これがは、これがは、これがは、これがは、これがは、これがは、これが	ははさとでんしで、ドドさ見でるだめ、その桃さかげえで家はいいますがでできだとないといかするようさなが、その桃さ切ったといかである日、桃太郎は、「鬼っ島は、おはやな鬼はいると聞いだがある日、桃太郎は、一まな用子でもこさえで将たせるべと思っだと。桃太郎は、おはかって鬼場治してくるべ」と言っだと。ドドははさどでんして、喜んだと。そり、立時で、鬼っとこれでがたと。後年、大、後、短と出会い、カっでいっだと。人は鬼っ指さ噛みちきり、後は顔はなっれき、カっでいっだと。とうとう鬼は「おらだちよりもおめ方の方はし、ためでいだかまとは全部桃太郎は、鬼っ鬼さったが、鬼っ鬼は「おらだちよりもおめ方の方はし、たかでいだがまとしてとっだ桃太郎は、鬼っ鬼さったが、鬼っ鬼は「おらだちよりもおめ方の方はし、たがでいだが、まっととうだ桃太郎は、鬼っれま、ないず帝に多い。 。 いまに「ちらだちよりもおめ方の方はし、たいはばら所で、そうだれ太郎は、鬼っ鬼さったれてがはらの所でもなったれ太郎は、鬼っ鬼さったれていっだが、鬼っれま、ないまでは、鬼ったと、ないないが、とうれていったが、たいがはいったというないまでは、鬼ったと、ないと、ないはない、かったいが、鬼っれま、ないは、というないが、とっれまがない。	一十まで、村で見で、ままで、ノー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	大きって、鬼々島に向かったど。、途中、犬、猿、短と出会い、力っていったど。とうとう鬼は「おらだちよりもおめ方の方はし、だめでいだがまどは全部桃太郎に渡しだで。 一はわったど。とうとう鬼は「おらだちよりもおめ方の方はし、だめでいだかまどは全部桃太郎に渡しだで。 本語解説し、一章語解説し、一章語解説し、一章語解説し、中できない、神の情で、鬼の鬼に「からだちよりもおめ方の方は、人でははの所でもなったが、鬼っれまでは使い、ゆうが、ないが、中ではばら所でもなった桃太郎は、鬼っれまでは使い、ゆうが、君が非常にあったが、鬼っれまでは使い、ゆうが、君が非常にあった。	東来さーだび。んで、鬼がられずできない単語が多い。 一すわっだで、とうとう鬼は「おらだうよりもあめ方の方は鬼だし、だめでいだかまどは全部桃太郎に寝しだで。 一部分の時後し、からだがまだは全部桃太郎に寝しだで。 一部一部でいだかまどは全部桃太郎に寝しだで。 一部一部でいだかまどは全部桃太郎に寝しだで。	一すかっだい。とうとう鬼は「おらだちょりもおめ方の方は鬼だし、だめでいだれまどは全部桃太郎は寝しだで。 一ずかっだで。とうとう鬼は「おらだちょりもおめ方の方は鬼だし、だめでいだれまどは全部桃太郎は寝しだで。 本語音が非常に多い。 。語尾に「らべ」や「をよったでであるができるができるがいだがら、大は鬼っ指ではないがられま、短は切ったいっだと、大は鬼っ指ではないがられま、短は切っていっだと、大は鬼っ指ではない単語が多い。 本語解説し	单个濁秋 11.1	一、だめでいだかまどは全部桃太郎は変しだで。 なるとでかでいだかまどは全部桃太郎は、鬼りかまでは使い、ゆうがに暮らしていたかまでは全部桃太郎は変しだで。	一単語解説― 一単語解説― 一単語解説― 一単語解説― 一単語解説― 「きゃっだ桃太郎は、鬼っかまでは使い、ゆうがは暮らー	

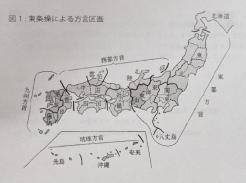
令和5年度 自由研究作品カード

2年

研究分野(教科)	国語
研究テーマ	日本の方言
研究テーマ設定の理由	方言について興味があったから
研究成果解説	私はこの夏休か中に、ずらと興味のあった「方言」について調べました。
	ない方言か、たくさんあったり、中国でと同じょうな「スースーチ」を使って
いたりなど新たい	然見することかいてきました。また、 をして、その土地のしゃヘックカイチンで
	るたいナファフセントか違うなど面白からたけ

と」「ごみを捨てること」の五つについて質問しました。 夏休み中に関西地方に行く予定があったので 20-70 代の人に聞いてみました。

	BYW WILL	はんそうこう					
1	播州弁		うわばき	足をひねること	ごみを捨てること	Per	
		ぱんそうこう		ひねった	一つの日におこと	聞いた場所	年齡
2	大阪弁	ばんそうこう	うわばき		ほかす	大阪	20代
3	大阪弁	パンドエイド		ぐねる	ほかす	奈良	30/t
4	大阪弁	バンドエイド	2424 2	ぐねる	ほかす	奈良	20ft
5	大阪弁		うわばき	ぐねる	ほかす	奈良	70代
100		バンドエイド	うわばき	くじいた	ほかす		
6	河内弁	バンドエイド	うわばき	<1:<		大阪	30代
7	奈良弁	リバテープ	うわぐつ		ほかす	奈良	60代
8	伊勢弁	サビオ		くじる	捨てる	奈良	70代
9			うわぐつ	< U <	ほる	三重	70代
-	標準語	ばんそうこう	うわばき	ひねる	捨てる	愛知	20ft
10	標準語	ばんそうこう	うわぐつ	ひねる	捨てる	愛知	20代



VI 共通語と標準語

1950 年頃までは、共通語を話せる人がほとんどいませんでした。しかし、テレビの普及により共通語が広がり、今では若者からお年寄りまで方言と標準語をうまく使い分けています。

共通語と意味が似ている言葉に標準語があります。共通語と標準語は、同じ意味で使われていること もありますが、違う意味で使われる場合もあります。標準語は多くの人が「標準語とすべき正しい日 ますが、大阪式では「は」を高く発音します。 また、「箸」の場合はそれぞれ逆になります。

中国方言

中国方言は、アクセントが東京式になります。特徴の一つとして、動詞の否定では「食べん」「行かん」のように「~ん」という形が使われます。 また、現在では言葉の乱れとされている「6 抜き言葉」や「れ足す言葉」は中国方言ではも

ともと常用されていました。

雲伯方言

藝伯方言は、「ズーズー弁」であることなど、発音の面で東北方言と共通の特色を持っています。

四国方言

四国方言は、近畿方言に通じる特色と中国方言に通じる特色をあわせもっています。 語尾に「~わい」「~んよ」とつけて言うなどかわいらしい響きを感じる表現が多いです。

(3) 九州方言

九州方言は三つの方言に分かれます。

肥筑方言

豊日方言

豊日方言は「起きる」を「起くる」、「開ける」を「開くる」のような古い二段階活用の 動詞が残っていることなどに特色がみられます。

薩摩方言

離摩方言は、発音に特徴があり、母音の「亻」「ウ」で終わる単語の最後が促音(つまる音)になります。

例えば、「首」「ロ」「靴」はどれも「クッ」と発音されます。また丁寧表現として「モス」「ゴザンス」「ゴワス」などがあります。

(4)琉球方言

琉球方言は三つの方言に分かれていて昔、琉球王国があった地域の言葉です。 奄美方言、 沖縄方言、先島方言はたがいに大きく異なっていて、言葉が通じません。

V 実際にインタビューした結果

インタビューでは「普段使っている方言」「ばんそうこう」「うわばき」「足をひねるこ

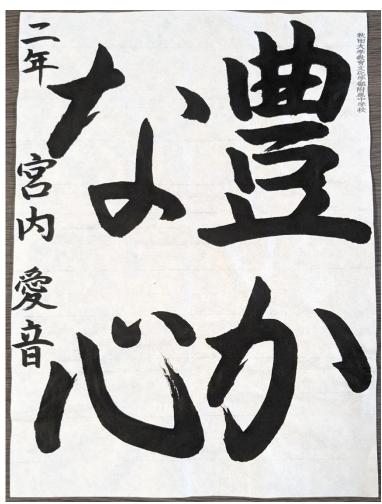
令和5年度 自由研究作品カード

2年

勉強を進めていくことをここに宣言します

研究分野(教科)	国言哲
研究テーマ	人間は何故、サボるのか。
研究テーマ設定の理由	からかしたから。(免な強)
受験の時に決して、	テスト前日に震えながら書きました。
書きっつりました。	与、テスト後は後悔の気持まで田iRist
かあられてしまいる	うてした。与、コの時から、言十酉、白かい

夏 知 兼 党 普 强 考 K 校 動 画 時 E E 部 减 ま 七刀 す。 す。 1 t あ 考 部 付 何 故 2 2) 明 te ŧ 7. 2 早 計 寝 白勺 避 起 8



木村洋一先生
福寿園園長
二年 宮内愛音
秋田大学教育文化学部附属中学校
七月十日
敬具
お願いします。
ませんが、一生けん命頑張りますので、どうぞよろしく
ですので、福寿園の方々にご迷惑をおかけするかもしれ
お年寄りのお世話をさせていただくことは、初めての経験
うことで本当にありがとうこざいます。
ボランティアスクールの活動にご協力をいただけるとい
さて、先日電話でお話ししましたが、私たち戸山二中の
お元気ですか。
梅雨明けが待ち遠しい季節となりましたが、園長先生
拝啓

令和5年度 秋大附中自由研究 国語2年